

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	株式会社 オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム(なのはな、コスモス)		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254-2		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2298400017&SC
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族との繋がりがりや交流を大切に、家族会や外出のイベント事に同行を呼び掛けている。また、季節を感じて頂くために、月1回は外食兼ねての外出(地域や遠方へ)。 ・入浴の継続(2日に1回)→重度化してきた方でも浴槽に入ってもらえるような対応。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりと向き合うこと、家族と過ごす時間を大切に考えて、年2回の家族会と日帰り旅行は開設当初から取り組んでいる。家族会には毎回半数以上の参加があり、今年は昼食作りを一緒に楽しんだり、ボランティアの演奏に聞き入ったり、職員の身内の協力も得て駄菓子屋を開店して1人100円ずつ買い物を楽しんだ。日帰り旅行は名古屋港水族館と日本昭和村へ出かけ、利用者の数多の笑顔と楽しい思い出を写真に収めた。重度化が進む中での外出はリスクも大きくなるが、なるべく全員で出かけたいと考えて取り組んでいる。今後は日常生活の中で利用者が楽しめることを提供して、笑顔をさらに引き出すためにレクの充実を目指すことも考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【smile together like a family】～家族のように一緒に微笑おう～ という理念に更新しました。掲示しています。家族のように一人一人と向き合うことに、日々心掛けています。	今年度新たな理念を掲げて日々を過ごしている。利用者一人ひとりと向き合うことを大切にしている、日々の関わりの中で職員は利用者や家族のように密に接していると管理者は感じている。会話や関わりの様子からもそのような印象が受け止められた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は図れていない。 夏祭りには、地域住民に呼び掛けており、また、地域の祭礼などの行事には、積極的に参加・見学をしている。	夏祭りのお知らせを町内会長に回覧板で回してもらえ、店頭にも掲示してもらい、ボランティアを含めて5～60名の参加があった。今年は地域の祭りの屋台が事業所へ寄ってくれ、交流に新たな広がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員(自治会長や民生委員など)には運営推進会議を通じて、入居されている認知症の方の状態や様子などを伝え理解を深めようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告と入居者の近況報告は必ず行うとともに、地域の行事予定などを伺う。 また、外部評価で受けた、家族のアンケート結果や意見も伝えている。	家族会と並行するなど年6回の実質的な開催はあるが議事録としては残していない。事業所の活動報告は写真を添えて具体的な様子が伝わるようにしていて、地域からは情報をもらえ、有意義な時間となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には伝えきれていない。入退居状況は確実にこなしている。	今年度よりグループホーム部会が発足して、市の職員や他事業所と情報交換している。運営推進会議に参加してもらった時に前回の議事録を渡しているが欠席した時は出向いて渡している、市と関わる機会がある。また市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的な行為」は全ての職員が正しく理解出来ているとは思えない。ただし、玄関の施錠は夜間以外は基本行わず、自由に外へ出れる環境を作り、離脱される方に対しては、極力付き添い外を歩くように、職員全員取り組んでいると思う。	今年度は研修の実施がないが、会議の中で身体拘束について話し合っている。外に出る時は携帯電話を所持してもらい、いつでも連絡が取れる体制を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会などは行っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修会・勉強会に参加は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には利用契約の説明、介護報酬改定の際には、書面で内容を伝えている。家族会や面会時には、直接伝えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価で受けた家族アンケートの結果は、職員会議で職員に周知している。改善点や要望には出来る限り応えられるよう努める。	今年は法人開催の運動会があり、家族も参加した。家族会を年2回開催して交流を楽しんだり行事にも参加を呼びかけていて、話を聴く機会が豊富にある。家族も知らないような利用者の笑顔を見れて感謝の言葉をもらうことも多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善や入居者に関する事などは、職員会議で出し合っているが、運営に関しての意見・提案は出ない。運営に関する事は管理者から職員へ伝えるのみである。	入浴の時間、買い物に行く時間など業務の流れを見直して変更したり、ケアについて話し合う中で意見が出ている。行事の年間計画に担当者を割り振り、細かい内容を企画してもらうことで職員が積極的に取り組める仕組みがある。	伝達事項の周知を確実なものにするための取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より代表者へは会議で職員の状況等を報告・相談はしている。少しでも反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員個々の「ケアの実際と力量」を把握出来ているとは思えない。今年度から外部研修に積極的に参加しており、内部研修として法人内のGH(三ヶ日・元町)と協力して研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者との会議に参加しているため、交流は持っているが、職員に機会を設ける事は出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があり、本人と面談は必ず行ないますが、皆が困っていることや不安なことを話されるとは限らないが、出来る聞きだし、少しでも解消するよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からは率直に意見や要望、入居してからのアドバイスは頂けるよう、家族会含め、関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にリハビリを利用していた方など、その段階で必要とされるサービスには極力支援出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をする以上、皆さんに役割をもって生活を送って頂きたい。掃除・食事作りなど、押し付けはもちろんしないが、あらゆる事に声を掛けて共に過している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の訴えの中で、場合によっては家族にすぐにも来て頂く事もあり、家族の協力は必須であることも伝えている。家族との交流(面会以外)も多く取り入れたいため、家族会や外出(日帰り旅行)には参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活空間を少しでも維持して頂けるよう、入居の際には、馴染みの物を持ち運んで頂く。馴染みの人が気軽に足を運んで頂けるような環境を作りたい。	行事の様子など写真を掲載して、職員からの一筆書きを添えた「日ノ岡GH便り」を毎月請求書、領収書と一緒に送付している。家族とのつながりを大切に考えて、年賀状を出している。外泊したり家族と出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない環境・空間作りをしたいが、なかには孤立を望む方もいるため無理強いはない。そのため居室にて食事を摂るが、1日一回はリビングで皆で食事が取れるよう促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされ、退居になった方に関しては、その後の様子を伺い、相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの何気ない会話の中で、希望や思いを入居者がポロっと言われる事がある。生活記録には記すものの、アセスメントを定期的に取り直すことが出来ていない。	担当制をとり、利用者との関わりに時間を費やしている。気づきや発した言葉を介護記録に記載して職員間で共有している。アセスメントシートを独自のシートに替えて1年余りが経ち、意向のスムーズな把握につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時には、家族やケアマネ・相談員から情報を集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居相談時には、家族やケアマネ・相談員から情報を集めるようにしている。入居後は、心身状況など変化に対応出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じ、職員間では個人の状況に沿ったプランを立てるよう意見を出しているが、家族含めた話し合いの場は持っていない。	モニタリングシートの活用については課題が残るが、ケアプランに添ったサービスの実施については介護記録から確認できている。日々の話し合いやカンファレンスから意見を総合してプランに反映させている。変更はケアプランに赤ペンで記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、申し送りノートには、日々の気づきや変化など記載し、職員間で情報共有している。ケアプランに沿った内容の記録をするよう周知しているが、記載が全くない日もある。活かさきれていないのが現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者が、入居された事もあり、情報は伝わりやすく連携が図れやすい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らして頂けるよう環境にしたい。地域資源の把握は難しい。(地域資源は何を指すのか…)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前にかかっていた医院や病院を絶対希望であれば、そのように対応するが、基本的には同グループの病院のDrによる訪問診療で体調管理している。他科受診(整形・口腔他)に関しては、基本管理者が同行し、Drに説明し指示を受けている。	ほとんどの利用者が協力医に変更している。月に1回訪問診療があり、夜間対応も可能であるので連携が円滑に取れる環境にある。また看護師も週3日来ている。「受診記録」は経過、受診結果、薬の変更が見やすくまとめ、情報の周知、把握に役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がいる日には相談するが、基本は管理者への連絡・相談になる。管理者が休みの日でも着変があれば電話連絡をするよう伝えており、管理者より担当Drへ連絡・相談をとり指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してしまった場合、基本1ヶ月は居室キープを考える。Drに確認を取りながら状況によっては、2週間でも退居を家族に伝えることがある(2週間たっても退院の目途が立たない場合に限る)。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	【重度化対応に関する指針】を打出している以上、出来る限りホームで対応を考えている。入居相談時には、家族にはどの状態まで対応が可能なのかなど、十分に説明をし理解を得ている。家族によっては、終末期の考えも変わる事もあるため、その時にはご家族より申し出て頂く。	医療連携加算を取っている。食事が口から摂取できなくなった場合は事業所での対応が難しいことを「重度化対応に関する指針」をもとに説明してサインをもらっている。体調に変化が見られた際は家族と相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の訓練は出来ていない。職員には随時外部研修への参加をして頂く予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災想定や津波想定避難誘導訓練は定期的実施している。あつてはならないが、実際に起きてしまった場合には、冷静に対応できるかが課題である。	5月、11月の年2回防災訓練を行い、消防署の指導を仰いでいる。訓練に地域と事業所の相互参加は未だ実現していない。スプリンクラーを設置してタンクを生活用水として確保している。	防災意識をさらに高めるためにも事業所独自の訓練を定期的に行う等の取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し、馴れ合いなりがちではある。グループホームでは特に密な関係になることで、プラスにもマイナスにも成りうるため、バランスが重要だと思う。	新入職員のプログラムにはマナー講習があるが、現任職員に対する研修を今年には行っていない。訪問日は家族のような温かみのある関わりと利用者のペースに合わせた対応を視認した。	職員の意識を統一してさらに高めることができるように研修の実施を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は本人の希望通りにしているが、あまりにも拒否が多く強い場合には、この限りではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事ペースは出来る限り本人のペースを大切に、自己摂取出来るよう促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に、身だしなみを整え出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物など、食事担当者が聞きだし、提供している。入居者によって差はあるが、出来る限り役割を持って頂いて、野菜切りやおぼん拭きなど手伝って頂いている。	食材の買い出しから野菜のカット、配膳、下膳、おぼん拭きに至るまで、利用者が出来る範囲で参加している。職員も一緒に食卓について会話を交えながら食事を楽しんでいる。また週に1回の手作りおやつも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録で食事量や水分量はすぐに分かるようにしている。水分量の少ない方には、定期以外にも、声を掛けて出来る限り摂取して頂き、脱水などにならぬように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。本人で磨ける方は声掛け・誘導し促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や、落ち着かなかった場合など、状態を見た中で誘導実施。身体レベルの落ちている方にも、なるべくトイレで排泄出来るよう支援している。	できるだけトイレで排泄することを支援している。夜間おむつを使用している利用者が半数以上いるが、定時誘導はせず睡眠を優先している。リハビリから布パンツとパットに改善できた事例がある。排便のチェックも行い体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便出来るよう、水分量に気を付けることや、牛乳摂取をする。運動はなかなか出来ていない。最終的には、薬による排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めており、個々の要望に沿った時間帯ではない。2日に1回のペースで入浴しており、入居者によっては拒否するため、無理には入れてない。	利用者によっては職員2人で介助していて、重度化しても浴槽に入ることができるように手すりを設置している。寒い時期は浴室から出た時の気温差に配慮している。歌を楽しめるよう浴室に歌詞を貼り出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠で寝れない方はいない(睡眠薬服用の方はいるが)。体の状態やレベルによっては、日中でも横になって頂き、休めて頂く支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で現在服用している薬の一覧はカルテに挟んでいる。また、変更や追加があった場合には、どうしてそうなったのかを申し送りノートに記載し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた楽しみごとは、なかなか出来ていない。不穏状態の方には寄添って散歩するなど、気分転換を図ることは極力行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日希望にそっての外出は、買い物やドライブであれば出来ているが、遠方には計画を立てないと難しい。	毎月1回うどん、かに料理、回転寿司など外食に出かけている。また日用品の買い物や犬の散歩に時々職員と一緒にいる。家族も一緒に日帰り旅行に出かけ、共に過ごす時間を大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で所持している方も見えるが、半数以上は所持していない。また、こちらの金庫で保管している方もみえ、買い物時や受診時にはもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという訴えがあった場合には、管理者より電話をし、了承を得てから本人に代わる。しかし、あまりにも頻回である場合には、掛けたフリをすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、季節感を得られるように張物や置物は考えている。温度には十分留意しており、冷やしすぎや乾燥に対する加湿に気をつけている。	各ユニット入口には「家」としての手作りの表札がついている。スペースにゆとりがあり、窓も大きく採光がいいので明るくゆったりとした空間となっている。行事の写真やレクの作品がたくさん掲示してあり、楽しい様子が覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(リビング)には、各自決まった席で過される事が多いが、ソファーに誘導したり、寄り添って過す時間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れた家具や置物を持ってきて頂けるよう、入居時に家族に伝えていた。食器類も極力持参して頂き、使用している。	マットを敷いて寝ている利用者もいる。各居室には写真や誕生日のお祝いのメッセージカードが飾ってあり、暮らしが朗らかであることが伝わってくる。ぬいぐるみ、掛け軸、花などそれぞれ好みのものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであるため、車椅子の方でも自走して自由に移動出来る環境である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【smile together like a family】～家族のように一緒に微笑おう～ という理念に更新しました。掲示しています。家族のように一人一人と向き合うことに、日々心掛けています。	今年度新たな理念を掲げて日々を過ごしている。利用者一人ひとりと向き合うことを大切にしている、日々の関わりの中で職員は利用者や家族のように密に接していると管理者は感じている。会話や関わりの様子からもそのような印象が受け止められた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は図れていない。夏祭りには、地域住民に呼び掛けており、また、地域の祭礼などの行事には、積極的に参加・見学をしている。	夏祭りのお知らせを町内会長に回覧板で回してもらえ、店頭にも掲示してもらい、ボランティアを含めて5～60名の参加があった。今年は地域の祭りの屋台が事業所へ寄ってくれ、交流に新たな広がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員(自治会長や民生委員など)には運営推進会議を通じて、入居されている認知症の方の状態や様子などを伝え理解を深めようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告と入居者の近況報告は必ず行うとともに、地域の行事予定などを伺う。また、外部評価で受けた、家族のアンケート結果や意見も伝えている。	家族会と並行するなど年6回の実質的な開催はあるが議事録としては残していない。事業所の活動報告は写真を添えて具体的な様子が伝わるようにしている、地域からは情報をもらえ、有意義な時間となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には伝えきれていない。入退居状況は確実にこなしている。	今年度よりグループホーム部会が発足して、市の職員や他事業所と情報交換している。運営推進会議に参加してもらった時に前回の議事録を渡しているが欠席した時は出向いて渡している、市と関わる機会がある。また市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的な行為」は全ての職員が正しく理解出来ているとは思えない。ただし、玄関の施錠は夜間以外は基本行わず、自由に外へ出れる環境を作り、離設される方に対しては、極力付き添い外を歩くように、職員全員取り組んでいると思う。	今年度は研修の実施がないが、会議の中で身体拘束について話し合っている。外に出る時は携帯電話を所持してもらい、いつでも連絡が取れる体制を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会などは行っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修会・勉強会に参加は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には利用契約の説明、介護報酬改定の際には、書面で内容を伝えている。家族会や面会時には、直接伝えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価で受けた家族アンケートの結果は、職員会議で職員に周知している。改善点や要望には出来る限り応えられるよう努める。	今年は法人開催の運動会があり、家族も参加した。家族会を年2回開催して交流を楽しんだり行事にも参加を呼びかけていて、話を聴く機会が豊富にある。家族も知らないような利用者の笑顔を見れて感謝の言葉をもらうことも多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善や入居者に関する事などは、職員会議で出し合っているが、運営に関しての意見・提案は出ない。運営に関する事は管理者から職員へ伝えるのみである。	入浴の時間、買い物に行く時間など業務の流れを見直して変更したり、ケアについて話し合う中で意見が出ている。行事の年間計画に担当者を割り振り、細かい内容を企画してもらうことで職員が積極的に取り組める仕組みがある。	伝達事項の周知を確実なものにするための取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より代表者へは会議で職員の状況等を報告・相談はしている。少しでも反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員個々の「ケアの実際と力量」を把握出来ているとは思えない。今年度から外部研修に積極的に参加しており、内部研修として法人内のGH(三ヶ日・元町)と協力して研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者との会議に参加しているため、交流は持っているが、職員に機会を設ける事は出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があり、本人と面談は必ず行ないますが、皆が困っていることや不安なことを話されるとは限らないが、出来る聞きだし、少しでも解消するよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からは率直に意見や要望、入居してからのアドバイスは頂けるよう、家族会含め、関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にリハビリを利用していた方など、その段階で必要とされるサービスには極力支援出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をする以上、皆さんに役割をもって生活を送って頂きたい。掃除・食事作りなど、押し付けはもちろんしないが、あらゆる事に声を掛けて共に過している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の訴えの中で、場合によっては家族にすぐにも来て頂く事もあり、家族の協力は必須であることも伝えている。家族との交流(面会以外)も多く取り入れたいため、家族会や外出(日帰り旅行)には参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活空間を少しでも維持して頂けるよう、入居の際には、馴染みの物を持ち運んで頂く。馴染みの人が気軽に足を運んで頂けるような環境を作りたい。	行事の様子など写真を掲載して、職員からの一筆書きを添えた「日ノ岡GH便り」を毎月請求書、領収書と一緒に送付している。家族とのつながりを大切に考えて、年賀状を出している。外泊したり家族と出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない環境・空間作りをしたい。特に、リビング(食事場所)での席の配置には、状況に合わせて変更している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされ、退居になった方に関しては、その後の様子を伺い、相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの何気ない会話の中で、希望や思いを入居者がポロっと言われる事がある。生活記録には記すものの、アセスメントを定期的に取り直すことが出来ていない。	担当制をとり、利用者との関わりに時間を費やしている。気づきや発した言葉を介護記録に記載して職員間で共有している。アセスメントシートを独自のシートに替えて1年余りが経ち、意向のスムーズな把握につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時には、家族やケアマネ・相談員から情報を集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居相談時には、家族やケアマネ・相談員から情報を集めるようにしている。入居後は、心身状況など変化に対応出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じ、職員間では個人の状況に沿ったプランを立てるよう意見を出しているが、家族含めた話し合いの場は持っていない。	モニタリングシートの活用については課題が残るが、ケアプランに添ったサービスの実施については介護記録から確認できている。日々の話し合いやカンファレンスから意見を総合してプランに反映させている。変更はケアプランに赤ペンで記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、申し送りノートには、日々の気づきや変化など記載し、職員間で情報共有している。ケアプランに沿った内容の記録をするよう周知しているが、記載が全くない日もある。活かさきれていないのが現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者が、入居された事もあり、情報は伝わりやすく連携が図れやすい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らして頂けるよう環境にしたい。地域資源の把握は難しい。(地域資源は何を指すのか…)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前にかかっていた医院や病院を絶対希望であれば、そのように対応するが、基本的には同グループの病院のDrによる訪問診療で体調管理している。他科受診(整形・口腔他)に関しては、基本管理者が同行し、Drに説明し指示を受けている。	ほとんどの利用者が協力医に変更している。月に1回訪問診療があり、夜間対応も可能であるので連携が円滑に取れる環境にある。また看護師も週3日来ている。「受診記録」は経過、受診結果、薬の変更が見やすくまとめ、情報の周知、把握に役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がいる日には相談するが、基本は管理者への連絡・相談になる。管理者が休みの日でも着変があれば電話連絡をするよう伝えており、管理者より担当Drへ連絡・相談をとり指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してしまった場合、基本1ヶ月は居室キープを考える。Drに確認を取りながら状況によっては、2週間でも退居を家族に伝えることがある(2週間たっても退院の目途が立たない場合に限る)。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	【重度化対応に関する指針】を打出している以上、出来る限りホームで対応を考えている。入居相談時には、家族にはどの状態まで対応が可能なのかなど、十分に説明をし理解を得ている。家族によっては、終末期の考えも変わる事もあるため、その時にはご家族より申し出て頂く。	医療連携加算を取っている。食事が口から摂取できなくなった場合は事業所での対応が難しいことを「重度化対応に関する指針」をもとに説明してサインをもらっている。体調に変化が見られた際は家族と相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の訓練は出来ていない。職員には随時外部研修への参加をして頂く予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災想定や津波想定避難誘導訓練は定期滝に実施している。あつてはならないが、実際に起きてしまった場合には、冷静に対応できるかが難題である。	5月、11月の年2回防災訓練を行い、消防署の指導を仰いでいる。訓練に地域と事業所の相互参加は未だ実現していない。スプリンクラーを設置してタンクを生活用水として確保している。	防災意識をさらに高めるためにも事業所独自の訓練を定期的に行う等の取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し、馴れ合いなりがちではある。グループホームでは特に密な関係になることで、プラスにもマイナスにも成りうるため、バランスが重要だと思う。	新入職員のプログラムにはマナー講習があるが、現任職員に対する研修を今年には行っていない。訪問日は家族のような温かみのある関わりと利用者のペースに合わせた対応を視認した。	職員の意識を統一してさらに高めることができるように研修の実施を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は本人の希望通りにしているが、あまりにも拒否が多く強い場合には、この限りではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事ペースは出来る限り本人のペースを大切に、自己摂取出来るよう促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に、身だしなみを整え出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物など、食事担当者が聞きだし、提供している。入居者によって差はあるが、出来る限り役割を持って頂いて、野菜切りやおぼん拭きなど手伝って頂いている。	食材の買い出しから野菜のカット、配膳、下膳、おぼん拭きに至るまで、利用者が出来る範囲で参加している。職員も一緒に食卓について会話を交えながら食事を楽しんでいる。また週に1回の手作りおやつも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録で食事量や水分量はすぐに分かるようにしている。水分量の少ない方には、定期以外にも、声を掛けて出来る限り摂取して頂き、脱水などにならぬように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。本人で磨ける方は声掛け・誘導し促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や、落ち着かなかつた場合など、状態を見た中で誘導実施。身体レベルの落ちている方にも、なるべくトイレで排泄出来るよう支援している。	できるだけトイレで排泄することを支援している。夜間おむつを使用している利用者が半数以上いるが、定時誘導はせず睡眠を優先している。リハビリから布パンツとパットに改善できた事例がある。排便のチェックも行い体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便出来るよう、水分量に気を付けることや、牛乳摂取をする。運動はなかなか出来ていない。最終的には、薬による排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めており、個々の要望に沿った時間帯ではない。2日に1回のペースで入浴しており、入居者によっては拒否するため、無理には入れてない。	利用者によっては職員2人で介助していて、重度化しても浴槽に入ることができるように手すりを設置している。寒い時期は浴室から出た時の気温差に配慮している。歌を楽しめるよう浴室に歌詞を貼り出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠で寝れない方はいない(睡眠薬服用の方はいるが)。体の状態やレベルによっては、日中でも横になって頂き、休めて頂く支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で現在服用している薬の一覧はカルテに挟んでいる。また、変更や追加があった場合には、どうしてそうなったのかを申し送りノートに記載し、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた楽しみごとは、なかなか出来ていない。不穏状態の方には寄添って散歩するなど、気分転換を図ることは極力行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日希望にそっての外出は、買い物やドライブであれば出来ているが、遠方には計画を立てないと難しい。入居者によっては、毎週土にモーニングを食べに家族が迎えに来られ出掛けられる方もいる。	毎月1回うどん、かに料理、回転寿司など外食に出かけている。また日用品の買い物や犬の散歩に時々職員と一緒にいる。家族も一緒に日帰り旅行に出かけ、共に過ごす時間を大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で所持している方も見えるが、半数以上は所持していない。また、こちらの金庫で保管している方もみえ、買い物時や受診時にはもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという訴えがあった場合には、管理者より電話をし、了承を得てから本人に代わる。しかし、あまりにも頻回である場合には、掛けたフリをすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、季節感を得られるように張物や置物は考えている。温度には十分留意しており、冷やしすぎや乾燥に対する加湿に気をつけている。	各ユニット入口には「家」としての手作りの表札がついている。スペースにゆとりがあり、窓も大きく採光がいいので明るくゆったりとした空間となっている。行事の写真やレクの作品がたくさん掲示してあり、楽しい様子が覗える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(リビング)には、各自決まった席で過される事が多いが、ソファーに誘導したり、寄り添って過す時間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れた家具や置物を持ってきて頂けるよう、入居時に家族に伝えていく。食器類も極力持参して頂き、使用している。	マットを敷いて寝ている利用者もいる。各居室には写真や誕生日のお祝いのメッセージカードが飾ってあり、暮らしが朗らかであることが伝わってくる。ぬいぐるみ、掛け軸、花などそれぞれ好みのものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであるため、車椅子の方でも自走して自由に移動出来る環境である。		